

No.65 contents

- 1 春季二科展によせて
- 2 〈絵画〉総評
- 3 〈絵画〉春季展賞選考について・作品寸評
- 6 〈彫刻〉総評・作品寸評
- 8 2014春季二科展 展示会場
- 10 選抜出品者一覧 被災地児童作品特別展示
- 11 第99回展 絵画部作品研究会のお知らせ
- 11 復興支援活動 セレクション展 デザイン部・写真部
- 12 第36回定時会員総会・アンケート結果を受けて 役職一覧
- 13 百周年事業報告・連絡 寄稿随筆
- 14 バリ賞 研修報告
- 15 計報 第99回二科展日程表・巡回展日程
- 16 大隈理事表彰 お知らせ 事務局だより 編集後記



2015 年 二科展は
100回展
を迎えます

春季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646



春季二科展 開催



春季二科展に

よせて

田中 良

新緑眩しい上野の森、東京都美術館で、春季二科展が開催された。会期中休館日があり、一日少なかったにもかかわらず、入場者が大変多かったことを喜ぶ。

会場は、展示委員、夫々担当会員の努力で、絵画、彫刻共展示の配慮が行き届き、鑑賞者の感想も大変好評であった。

今年は大作シード作家に特別130号大の制作を依頼したが、その期待通り、意欲的な力作を出品してくれた。若手作家の養成は急務で、常に心して方策をたてなくてはならない。

又一方、会員の春季展についての認識にかなりの差があることに気付く。二科会の趣旨とか綱領に示されているとかの問題ではなく、芸術に携わる者は、常に冒険と創造を繰り返しつつ人間性と共に歩むものだろうから、もし低調だったと気付かれた会員は、私を含め、反省して頑張ろう…。

来年に迫った二科百周年展への準備も、実行委員の骨折りで、手筈通りに進行中。事務局の奮闘と共に感謝する。



春季二科賞・上石直美



春季賞・高木陽



春季賞・村山成夫

まずは春季二科展の選抜者、春季の受賞者の皆様、おめでとうございます。
改装後の都美術館で再開した春季展は本展受賞者の選抜、新人奨励、会員の実験的制作の発表の場とする事を三つの柱としています。絵画部では春季二科賞、春季賞を設け三回目を迎えました。賞審査は何よりもまず、民主的公平さ、透明性が大切です。授賞式でも生方常務理事が審査内容を詳細に報告しましたが、この二科ニュースにおいても審査内容を公表したいと思っています。
審査内規に基づき、展示日に出席した絵画部会員49

春季展賞選考について

山中 宣明

名をもって審査会とし、大作シード作家を含む50名の選抜出品の中から審査した結果は以下の通りです。

第一次賞候補（各会員が5名を賞候補として投票）
上石直美 20 高木 陽 19
村山成夫 12 高山章亮 12
三宅敦子 12 吉田紗知 11
篠原涼子 10 岸 ユキ 8
所 智恵子 7（上位9名）
第二次審査（理事10名による同数票者の決選投票）
村山成夫 8 高山章亮 1
三宅敦子 1
第一次・二次審査結果をもとに最終決定
春季二科賞 上石直美
春季賞 高木 陽
村山成夫

一切の情実なく粛々と厳正に投票により審査が実施された事を報告します。

受賞者3名とも一般選抜者、大作シード作家、具象的作品であった事は特筆すべきですが、これは各審査員が具象、抽象を問わず、作品の密度と独自の表現、画面に込めたエネルギーを基準に作品本位で選考した審査結果です。ですから受賞傾向として捉えるのではなく、他の作品と価値観が違いうことに誇りを持ち、今後自分の芸術を深めることを望みます。団体における審査は制作者が制作者を選考するのですから、常に奨励の視点が必要です。また投票による審査は最大公約数的作品が評価されるリスクもありますが、特異な光るものを見抜く事も大切にしつつ公明な審査を続けることの重要性を痛感しました。

会員による 受賞作品寸評



村山 成夫「色はにほへど」 F130



高木 陽「柳と赤い空」 F130



上石 直美「ゆらぎ1401」 F130

村山 成夫
移ろい行く生命の栄枯。花期を過ぎた、蓮の姿を、鳥か虫の眼を擬して、萎えた蕊や虫喰いの跡を描いた。拡大と微細の対比が面白い。選ばれた多くの作品の中で、一頭地を抜くのは容易ではない。作者の技量を駆使した、よい作品を期待する。
（松室 重親）

高木 陽
斜面の大地を白黒のモノトーン、そして赤い空の風景は会場の中で異様な空気を放つていて足をとめた。赤と白黒だけの色彩の特異性と共に、広がる大地の植物の入念な描き込みが大きな魅力となっている。主題の柳の木はもっと存在感を見せてもいい。
（西 健吉）

上石 直美
ブルーを主調色とした作品である。鮮やかなブルー系のハーモニーと隠し味的に薄いバイオレットが配され心を和ませてくれる。有機的直線と曲線がうまく融和し、色彩に透明感があり、蓮池の水面のゆらぎが感じられる。構成力もすばらしく爽やかな風を感じさせる。
（木戸 征郎）



開場を待つ来場者の長い列



初日開場前の展示作業

春季展総評 絵画部 ハイブリッドな春季二科展 香川 猛

上野公園の桜の新緑が眩しく感じられる好季節に、2014年の春季二科展が東京都美術館で開催された。4月17日（木）の初日は、午前の展示準備と賞審査・結果発表と続き、厳しいスケジュールの中を会員諸氏のご尽力により、午後2時のオープンにこぎ着けることができた。

一般の入場者もオープン前には入口に行列ができる程の盛況で、賑やかなスタートがきれた。

2日目の18日（金）から23日（水）の最終日までの入場者は順調で、作品を食い入るように熱心に見る人や友人同士で思いを囁き合う人達もあり、終日会場は肅々とした光景であった。

春季二科展は若手の育成と奨励をコンセプトの一つとし、昨年の本展受賞者を選抜した。優秀作品には賞を与え、会場も1室から4室を使い、前面に押し出す形をとった。出品者のモチベーションも高揚し、新鮮で斬新な作品が増え、特に1室はすばらしかった。一方、会員諸氏には本展



のミニチュア版にならないよう、実験的な作品を発表する場をコンセプトのもう一つとしている。持ち味を一步前進させた作品が目立つようになった。

最近の車社会ではハイブリッドカーが人気上昇で、売り上げも伸びている。「ハイブリッドカー」とはガソリンと電動モーターなど複数の動力を組み合わせた低公害車のことだ。若手受賞者と経験豊富な会員が互いに協力し、切磋琢磨して盛り上げているさまはこの車のエネルギー駆動に似ている。二つのコンセプトが「虻蜂取らず」にならないよう、継続した反省と実行が肝要だと思う。



会場2室



会場1室



会場10室



図録販売受付

会員による 作品寸評



添野 忠 「ある日の訪問者」 F100



今泉 あかね 「anticipation」 F100



川畑 清美 「方船一宙へ」 F100

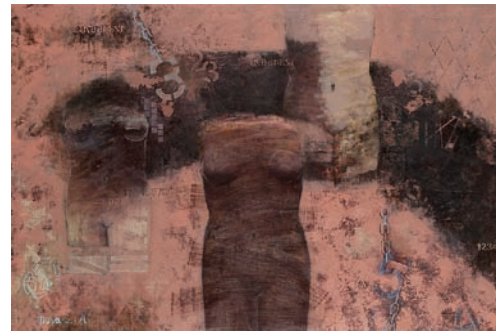
目に見える女性を描きながら、その奥底に潜む目には見えない何かを感じとり描き出そうとしている狙いは伝わる。女性から発する人間性や体の丸み、背景となる空間との距離感、コラージュされ飾られた絵の配置等画面調和に研鑽してほしい。
(横前秀幸)

精神の状況を抽象する画面をじっと凝視すると、作者の感性に染み込んだ平凡な日常が現われ不思議なリズムを感じる。内面性の表現の曖昧さを追い詰めることと、調和を逃れて独り歩かざる方向にある別の世界への展開発見に期待します。
(横前秀幸)

複数の人物が一つにまとまり天に向かっている。下の二人の女性は何を思っているのか、ストーリーは深まる。上部には何があるのか観る人に想像させる。民衆を率いる自由の女神の像でもある。キュービズム的表現は、構成力とデッサン力を物語っている様である。
(木戸征郎)

川畑 清美

会員による 作品寸評



三宅 敦子 「沈黙2014」 F120



篠原 涼子 「pond」 F130



高山 章亮 「繫留」 F130

落着いたローズグレーの中に3体のトルソが配置され、ダークグレーの帯面や数字、アルファベットが効果的で都会的な色彩センスを感じる。これから色彩感を生かし、トルソのフォルムや構成の研究でさらなる内面表現を試みたい。
(西 健吉)

三宅 敦子

風景を色面で捉え、四季の移り変わりが画面いっばいに表現されている。平面的な表現は、洒落た作品を生み、色彩的には、鮮やかで、変化と調和が工夫され、特に曲線美が印象的である。暖色と寒色のみごとな調和は、大オーケストラによる名曲演奏の様に感じる。
(木戸征郎)

篠原 涼子

港で出番を待つ間の時の流れを熟練した写実の技量で表現し鉄の錆びた臭いが画面から漂ってくるような重厚な力作。青の中間色と茶褐色の色調も美しい。穏やかな港風景の中に人生を無言で暗示している。孤高を保ち職人に徹する作家に育ってほしい。
(横前秀幸)

高山 章亮



安坂 伸司 「シンフォニー」 F80



鈴田 文明 「王子駅」 F100



岸 ユキ(富巳) 「オクラ」 F130



所 智恵子 「竿燈広場の人達」 F130



吉田 紗知 「残響」 F130

全体的には曲線が組み合わさった動きのある作品である。線の効果が生きている。左下一部が気になるが、全体的にはモダン性があり、擬人化された作品となりおもしろい。人物と器物が音符の様に組み合わせられ、まるで交響曲が生み出されているようだ。
(木戸征郎)

安坂 伸司

鳩になった作者は現実の人間社会から逃れて、夢と希望のコミュニティを鳥瞰し図として表現している。美術史やアートの領域のみに存在するのではないことを一考させられるが、写真の映像を離れ葛藤や衝動の境界線を加筆すればより表現の密度も深まる。
(横前秀幸)

鈴田 文明

春野菜オクラをモチーフにした作品は、作者自身がオクラの中に入り込んだような観察でねばり強く描かれている。黒い背景(空間)も効果的で白い花、オクラの緑が上品で美しく生き生きとした大画面を創り出している。左下の空間面積が画面を引き締めているので大切にしたい。
(西 健吉)

岸 ユキ(富巳)

若手作家らしい大胆な構成で、右側に大きな横顔が並び左は広場の空間である。これは作者のイメージを形成する心象風景であろうが全体的に画面は明るく色調にも個性が見られる。感覚的、心理的に捉えた幻想的な風景を感じさせる作品で新鮮感がある。
(吉井英二)

所 智恵子

白系の広い背景の中に大きく描かれた女性像は肌の色と共に赤系や緑が効果的に配されて、明るい色調の中で美しくインパクトの強い作品に惹かれた。これからも色彩センスを生かして空間の色面構成により深まりや人体の構成位置、トリミングについても研究したい。
(西 健吉)

吉田 紗知



大坪 義武 「犬ー思考回路ー」



瀬戸 志保 「拾う女」



仲子 亜未 「パン屋のお兄さん 頭像」



こじま マオ 「CLING TO THING (物への執着)」



吉田 朋世 「兎菊」

発泡スチロールの原型をシリコン型から石膏にした作品が、昨年までの仕事から更なる挑戦をしているのが感じられます。愛犬でしようか！多くを語らずとも作者との親密な情感が伝わってきます。

大坪 義武
(津田裕子)

混沌とした塊の中から、いきなり形を彫り出したような仕事です。石という硬い素材で軟らかく、そして今にも動き出しそうな雰囲気表現しています。ガラスの扱いに少し疑問が残りました。

瀬戸 志保
(津田裕子)

会員による 作品寸評

材質はブロンズ。意欲的な制作態度を感じる。ほとんど曲面の頭像全体を、方形でまとめようと、努力している。首部に少し難があるものの、パンを頭上に乗せるという発想は、新鮮で、好感がもてる作品である。

仲子 亜未
(市川明廣)

沢山のものを盛り込み、物にとらわれるさまをF R Pという素材を使って、達者に表現しています。ややもすれば想像の翼を折られる危うさと、創作者に必要なある種の毒を孕む作品です。

こじま マオ
(津田裕子)

擬人化兎、ブロンズの優作である。首骨、背骨には、それぞれ瓦棧を配し、造形的に美しい。表面処理も、ダンボール紙、紐などの表現で好感がもてる。具象的な彫刻とするならば、体重を支える前足は、さらに強い形になって欲しいと思う。

吉田 朋世
(市川明廣)



新緑の季節、2014年度春季二科展が東京都美術館で開催されました。彫刻部は出品数43点と昨年より多く、展示空間もすっきりと、気持ちの良い展示でありました。

的創造を謳って発足した春季展の趣旨を思い致すに、招待新人の中に、明日を予感させる生きいきとした造形姿勢が観られた事は何よりの喜びでありました。来年は二科会創立百周年とのこと。創立当時、フランス留学などをして大いに刺激を受けた先人達が美術界に革新運動を起こして発足した二科会でありましたが、大正8年(1919)、まだ彫刻部がない時分に、藤川勇造が彫刻の出品で会員に推挙されたのが彫刻部の萌芽と言えましょう(それ以前には岸田劉生が「男の顔」という彫刻を1点出品したことがあったそうで、写真に則したそれは立派な作品であったとのこと)

春季展総評 彫刻部 百周年を前に

日高 頼子

す)。その後、藤川勇造を中心とした彫刻の出品者が少しずつ増え、10年後には130点もの搬入があったとの記録があります。その間フランスから、オシツプザツキン(第11回展に4点、第12回展に7点、第13回展に3点、第17回展に1点)、マイヨール(第13回展に2点、第17回展、アーキペンコ(第14回展、ピカソ(第17回展)等の巨匠の作品を迎え、二科会のみならず日本の彫刻界にも大きなセンセーションを巻き起こしたといえます。彫刻を志す若き彫刻家達は大いに夢をふくらませ、吸い寄せられるように二科会彫刻部へ出品したものと、今は亡き淀井敏夫先生が語っておられました。

彫刻への情熱は時代の推移と共に優れた作家を多数育み輩出してきたのです。私には遠く及ばない事ではありますが、願わくば会員会友諸氏が、時流におもねらず、彫刻でしか表現出来ない自らの世界を真摯に探求し、それに魅了されて次世代の作家達が憧れを持って出品して来る、そんな二科会彫刻部であって欲しい、と願わずにおられません。

会員による 作品寸評



林 一平 「ピオトープー孵化ー」



森田 博之 「雄羊」



川本 拓 「みなも」

楠の丸太の形状を生かした作風である。丸太の円周が雄羊頭部の彎曲した鼻梁と角に重なるように造形されている。とは言うものの頭部から目・鼻梁・角にかけての形を彫り出さないと作品にならない。気配だけの未完の作である。

森田 博之
(西村文男)

楠の木片を集成接着して基本的な材をつくり、緻密に組み合わせることによって有機的な生息空間をつくり出している。このところ自分なりの方法論を手に入れたて摩訶不思議な空間を演出できるようになった。今後が楽しみな作家である。

林 一平
(西村文男)

2014春季二科展 展示会場



1室



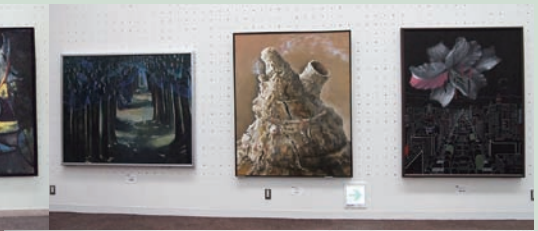
2室



3室



4室



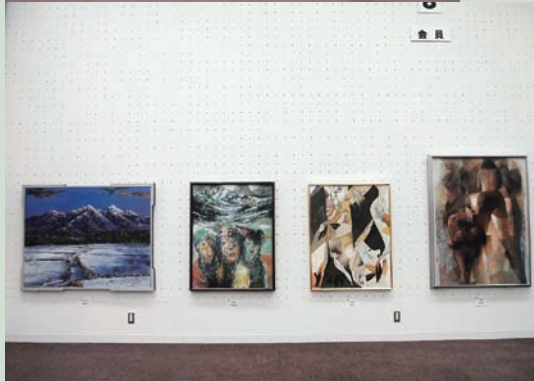
5室



6室



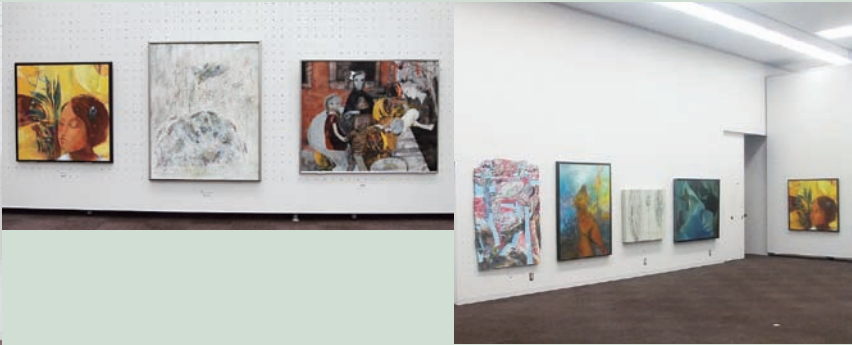
7室



8室



9室



10室



11室



12室



13室



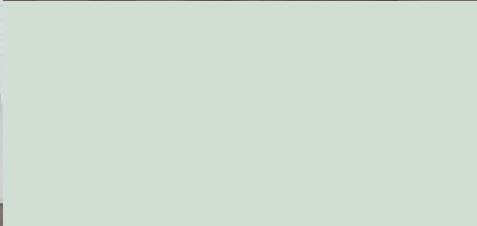
14室



15室



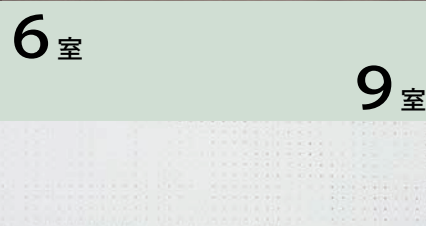
16室



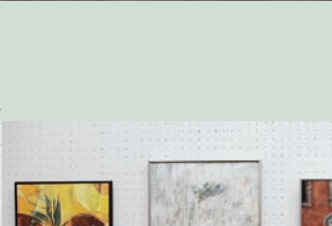
17室



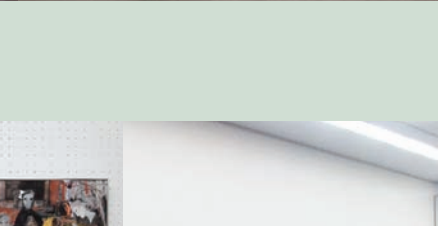
18室



19室



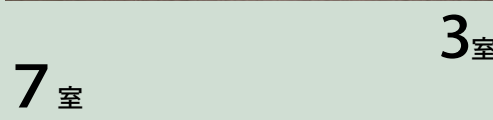
20室



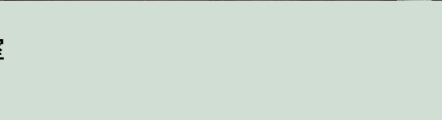
21室



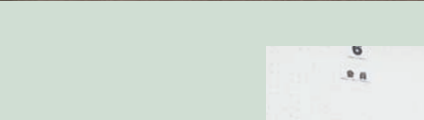
22室



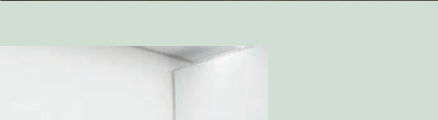
23室



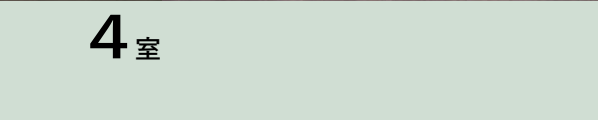
24室



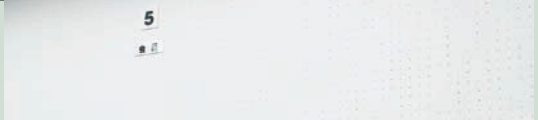
25室



26室



27室



28室



29室



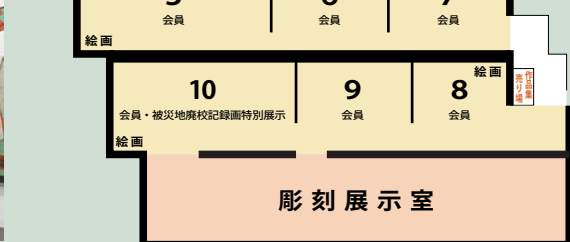
30室



31室



32室



33室



34室



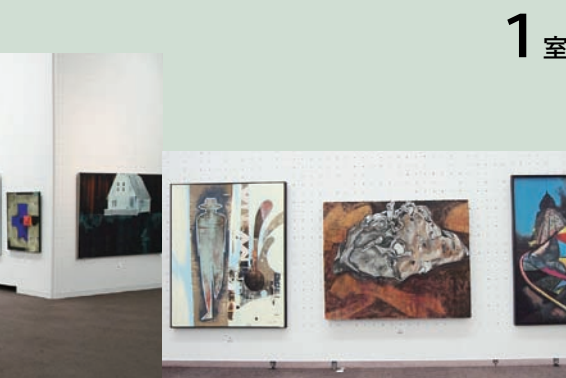
35室



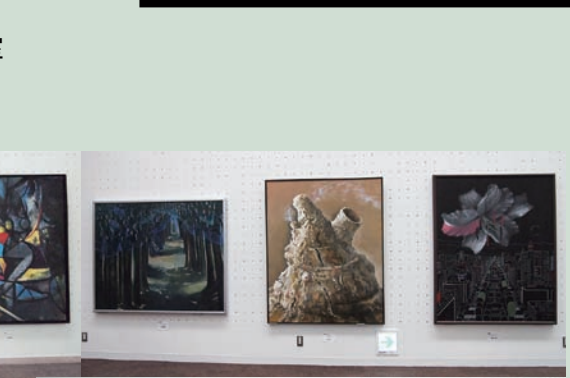
36室



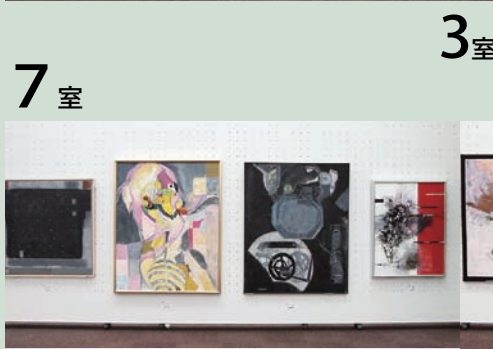
37室



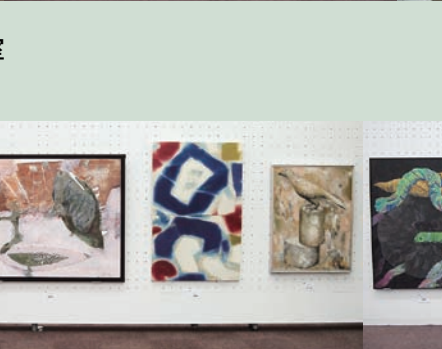
38室



39室



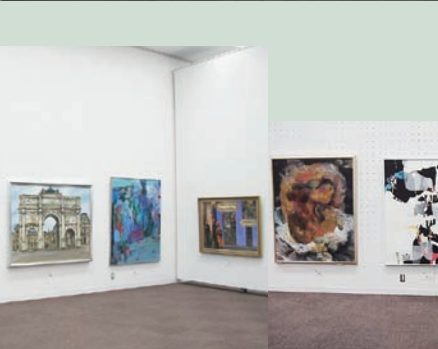
40室



41室



42室



43室



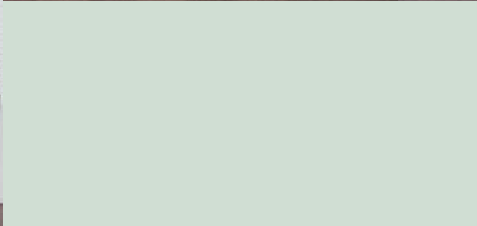
44室



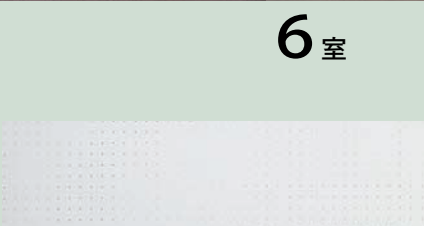
45室



46室



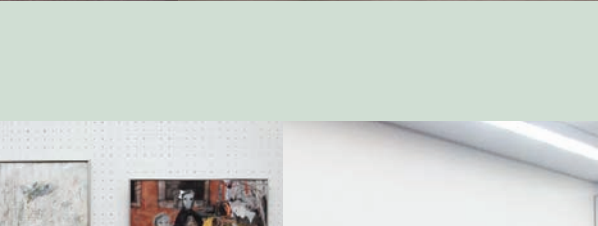
47室



48室



49室



50室



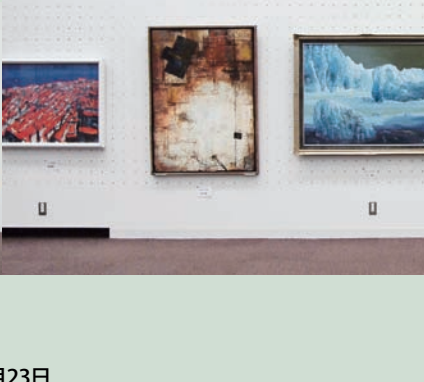
51室



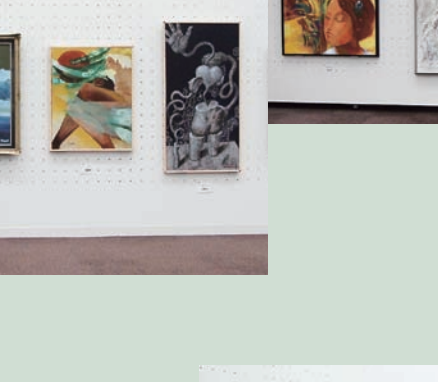
52室



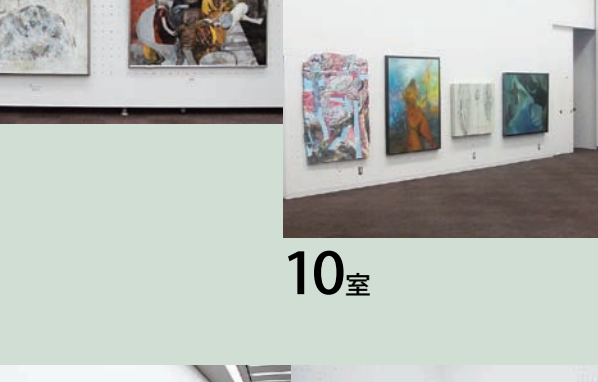
53室



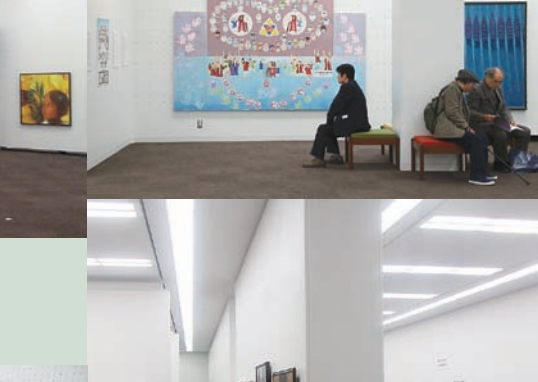
54室



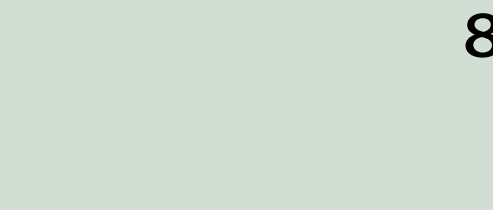
55室



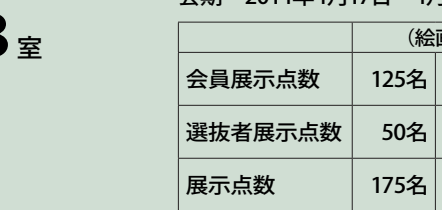
56室



57室



58室



59室



60室



61室



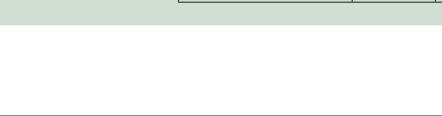
62室



63室



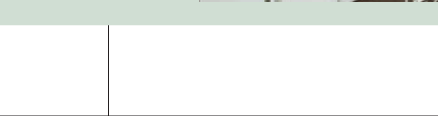
64室



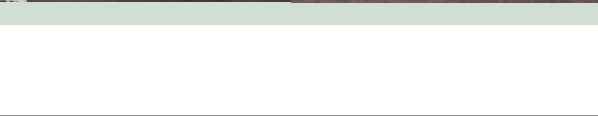
65室



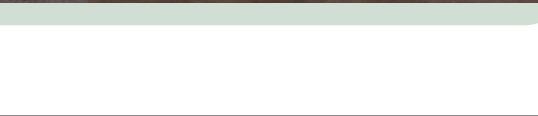
66室



67室



68室



69室

70室

71室

72室

73室

74室

75室

76室

77室

78室

79室

80室

81室

82室

83室

84室

85室

86室

87室

88室

89室

90室

91室

92室

93室

94室

95室

96室

97室

98室

99室

100室

101室

102室

103室

104室

105室

106室

107室

108室

109室

110室

111室

112室

113室

114室

115室

116室

117室

118室

119室

120室

121室

122室

123室

124室

125室

126室

127室

128室

129室

130室

131室

132室

133室

134室

135室

136室

137室

138室

139室

140室

141室

142室

143室

144室

145室

146室

147室

148室

149室

150室

151室

152室

153室

154室

155室

156室

157室

158室

159室

160室

161室

162室

163室

164室

165室

166室

167室

168室

169室

170室

171室

172室

173室

174室

175室

176室

177室

178室

179室

180室

181室

182室

183室

184室

185室

186室

187室

188室

189室

190室

191室

192室

193室

194室

195室

196室

197室

198室

199室

200室

201室

202室

203室

204室

205室

206室

207室

208室

209室

210室

211室

212室

213室

214室

215室

216室

217室

218室

219室

220室

221室

222室

223室

224室

225室

226室

227室

228室

229室

230室

231室

232室

233室

234室

235室

236室

237室

投稿歓迎

随筆、感想、カット テーマ自由
随時、原稿をお寄せください。

E-mail : newsnika@gmail.com

FAX / 郵送 : 二科会事務所
「二科ニュース」宛

※掲載・編集の判断はご一任下さい。

復興支援活動
「子ども達を、絵を描く
ことを通して元気に
したい」

震災以来取り組んできた二科会の次回支援活動の予定が決定した。今回は福島県南相馬市から宮城県東松島市へ処を移し、県教育委員会・学校長の協力を得て、宮城県東松島市鳴瀬桜華小学校に於いて、7月7日～7月8日両日に、6学年を対象に「みんなの夢の街」をテーマに制作の予定。完成作品は第99回二科展に特別展示、例年通り制作記念小冊子を作成し児童全員に配布する。

東京都美術館
公募団体
ベストセクション
美術
2014



黒川彰夫「余韻(エーゲ海)'13」

云募団体のその年の代
表的な作品が並び、
各団体の特徴が見ら
れましたが、今の傾
向か、具象作品が多
く見られたので、抽
象の作品の成り立
ちなどをトークの内
容に入れ、進まし
た。しかし、一日9
人の担当者が20分
の持ち時間で行うの
は、鑑賞者にとって
少し長いように思
いました。

写真部は全国47都道府県に支部があり、それぞれが独自に活発な活動を行っています。各支部では支部員を対象にした写真の勉強会や撮影会を行っています。が、一般の県内在住者や在勤者を対象に作品公募をする支部公募展を実施するなど、地域的な写真文化発展の一翼も担っています。また、こうした支部の積極的な活動が全国に拡大した写真部の組織を支え、毎年の二科展における写真部展開催においても大きな力となっています。

写真部展としては第62回

第62回写真部展の一次審査を終えて

の開催になります。一般公募作品の募集は、昨年までの3部門から「単写真部門」と「組写真部門」の2部門にしました。応募者が年齢で制約されることなく、自由闊達に作品の表現性が主張できる公募展にすべく2014年度は「学生部門」の募集をなくしました。

今年の一般公募作品受け付けは3月1日から7日に行い、全国から2931名・11000作品の応募がありました。一般公募作品の入選内定作品を選ぶ一次審査は国立新美術館の審査室において、4月10日か

ら13日の4日間にわたって行いました。公正かつ厳正な審査の結果、「単写真部」門「組写真部門」合計で974点の入選内定作品が決まりました。続いて6月に行う二次審査で「二科賞」をはじめ入賞作品が決定され、特別会員・会員・会友の出品作品と併せて、第99回二科展へ向けて写真部展示作品の準備が整うこととなります。見応えのある作品展示で例年に増して多くの来場者を得て、いっそう充実した二科展が開催されるものと大いなる期待を抱いております。

◆2014春季二科展 選拔出品

絵画部

(会友)

吉井	山口	三宅	前田	中村	鶴田	塚本	篠原	木村	川畑	蒲田	大洞	宇都木	朝倉	安本	竹淵	片岡	今泉	山岡	古川	添野	吉田	高山	所田	白田
	博	敦	友	ふく子	英輝	和美	涼子	ユリ	清美	宏	定	裕子	由美	弘恵	直美	素子	あかね	明日香	正新	忠	多鶴恵	章亮	智恵子	聖子
愛	司	子	幸	愛	福	福	滋賀	神奈川	鹿兒島	神奈川	治滋賀	滋賀	美静岡	恵知	美琦玉	東京	神奈川	滋賀	新	木	京	東京	岐阜	知
天	長崎	岐	鹿兒島	知	岡	岡	賀	川	島	川	賀	賀	岡	知	玉	京	川	賀	新	木	都	京	岐阜	知
阪		阜	島															湯						

彫刻部
(会友)
川本 拓〔神奈川〕
森田 博 之〔埼玉〕
林 一 平〔石川〕

(一般)

上石直美〔福島〕	浅利美伎子〔山梨〕	奥村勝子〔滋賀〕	川崎美津子〔熊本〕	川人美津子〔東京〕	岸ユキ〔富山〕〔東京〕	鈴木文明〔東京〕	たかぎちようこ〔大阪〕	高木陽東〔東京〕	立石洋子〔福岡〕	田中正子〔京都〕	徳弘あずさ〔高知〕	富秋和子〔神奈川〕	中島諄子〔富山〕	中田登〔北海道〕	西垣雅子〔神奈川〕	久田千恵子〔愛知〕	三木照男〔埼玉〕	三沢榮長〔長野〕	宮田春奈〔石川〕	村山成夫〔新潟〕	安坂伸司〔東京〕	山村出洋〔神奈川〕	吉田紗知〔千葉〕	渡邊仁美〔神奈川〕
----------	-----------	----------	-----------	-----------	-------------	----------	-------------	----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	----------	-----------

(二般)

仲子	吉田	大坪	こじま	瀬戸
亜	朋	義	マ	志
未〔静岡〕	世〔奈良〕	武〔静岡〕	オ〔神奈川〕	保〔山形〕



会場を訪れた松岡校長

この度の大震災で、子ども達は多くのものを失いました。しかし、このような災難に遭わなければ得ることのできないこともたくさんありました。全国はもとより世界中からのご支援をいただきました。その一つに二科会様の絵画教室がありました。最初にお話をいただいたのは昨年の8月でした。ご依頼があった校舎・校章の写真と校歌の送付。加えて、真野小学校を語るに欠かせない存在になっている平成元年度から続いている万葉太鼓があること。その太鼓は、高学年になると全員が取り組んでいる

9月24日と25日の両日、二科会の皆様のご指導による絵画教室が仮設校舎で開催されました。心地よい緊張感の中、子ども達は下絵に筆を入れていきました。似顔絵の描き方も丁寧にご指導いただきました。この作品は春季展が終わると鹿島小学校3階の真野小学校メモリアルルームの入り口に掲げられます。真野小学校は残念ながら閉校となりましたが、この作品の前に立つたび、真野小で学んだ日々を思い出し、力づけられることと思います。

二科会の皆様には、貴重な作品づくりの機会と永遠に残る作品を贈っていただき、誠にありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

会場を訪れた松岡校長

新企画

第99回展会場各展示室で
絵画部作品研究会の

2014年9月3日(水)
12時～14時(受付11時30分)
各展示室に担当会員を配置し、作品を出品者と共に研究します。

積極的な参加で、次の作品につながる研鑽の場にしたいと、期待しています。

研究会を盛り上げる力は、参加者の意欲次第です。

出品者の方々は、各自の入選作品のある展示室にお集まりください。

○各展示室 担当会員

2 F											1 F									
11室 ～ 13室		9室 ～ 10室		7室 ～ 8室		4室 ～ 6室		1室 ～ 3室		15室 ～ 18室		4室 ～ 14室								
清水幹男	三後勝弘	藤橋秀安	加覧裕子	鎌田道夫	入佐美南子	尾崎 功	大松峯雄	寺田 眞	鶴岡義詮	瀧澤賢福	濱田 一郎	馬場 一郎	野村みそら	一葉清明	井田健一	井上裕義	山岸光代	五味祥子	古保木雄一	木戸征郎

[illegible]

チャリティーコーナー
会期中の二科ショップではチャリティーコーナーを設け、各部の協力による小作品を展示販売し、純益を寄付しております。来場の方々も、気に入った作品を見つけ、入手できると好評です。

会員諸氏には、99回展も引き続きご協力をお願いいたします。

審査期間中に事務所・広報担当まで色紙など寄贈作品をご持参ください。

第36回 定時会員総会

日時 平成26年5月24日
午後1時～3時40分
場所 国立新美術館講堂
出席会員163名（委任状
出席65名）により総会成立。
出席理事
田中 良 生方純一
松室重親 吉井英二
川内 悟 菅原二郎
吉野 毅 宮村 長
香川 猛 吉井 浩
大隈武夫 中原史雄
西 健吉 山中宣明
中島敏明 黒川彰夫
小田信夫 島田紘一呂
出席監事
木戸征郎 尾崎 功
前田耕成
議長 菅原二郎

第3号議案
平成26年度事業計画報告
議長より議事資料に基づき、平成26年度の事業計画の説明、報告が行われた。
第4号議案
平成26年度正味財産増減予算書報告
川内理事より議事資料に基づき、平成26年度収支予算案の説明、報告が行われた。
第5号議案
任期満了に伴う新役員承認の件
議長より別紙添付資料に基づき、任期満了に伴う新役員選任案の説明が行われ、議長より役員各人ごとの承認を求めたところ、満場一致で原案通りこれを可決した。
第6号議案
会員アンケート結果報告
松室理事より会員アンケートの結果報告が行われ、中原理事より詳細な説明が付け加えられ、出品規約検討委員会、選挙制度検討委員会、春季展検討委員会が設置される事が報告された。

第7号議案
百周年事業報告
吉野理事より詳細な報告がなされた。
以上により総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。この後、休憩をはさみ、田中理事長より新役員全員の現職重任人事が報告され、満場の賛同を得た。
アンケート結果を受けて
中原史雄
昨年末に実施した会員アンケートは、118名から回答があり、項目ごとに貴重な意見が寄せられた。集まった意見を受け、理事会では、内容を精査し議論を重ねているが、評議員会でも検討のため、全評議員に個々の意見を記した資料を送付した。5月24日の会員総会で、特に問題提起の多かった、選挙制度について・審査と出品規約について・春季展の方向性について、以上3点、それぞれ検討委員会を立ち上げ継続審議して行くと松室常務理事から報告があった。
アンケート内容からの課

題として、出品者と入場者をいかに増やすかが大切だが、若手が存在感を示すなか、ベテラン作家にどう輝きを与えるか、その施策も重要である。これらの迅速な対応として、昨年まで初日におこなってきたギャラリートークと講評会を一本化し、作品研究会にする。延べ46名の会員が参加、出品者の質問を聞きアドバイスを与える合評形式になる。また会期中には、新たな出品者を勧誘するためのギャラリートークを実施、入選するには何が必要かを語る。来年は百回展を迎える。出品者の思いを結実させ、より魅力ある展示空間にしたいものだ。
※以下の項目について会員を対象に、記述アンケートが実施された。
(2013年11月12日集計)
1. 選挙制度について
2. 展示について
3. 審査について
4. 巡回展について
5. 支部運営について
6. 作品集について
7. 二科ニュースについて
8. 春季展について

公益社団法人二科会 役職一覧（平成26年5月24日現在）	
・代表理事(理事長)	・評議員(絵画)
田中 良	塙 珠
・常務理事	田 川
(絵)伊庭新太	濱 川
松 室 重 親	五 味 祥 子
生 方 純 一	田 浦 明 也
吉 井 英 二	一 乗 清 明
川 内 悟 郎	野 村 一 郎
(彫)菅 原 毅	馬 場 謙 二
吉 野 毅	森 岡 謙 二
(監事)	山 岸 光 代
黒 川 彰 夫	加 光 子
山 中 宣 明	戸 公 久
香 川 健 敏	有 基 雄
中 原 史 雄	堀 尾 一 郎
西 島 敏 明	大 塚 勝 弘
吉 井 浩 夫	三 後 基 雄
大 隈 武 夫	皆 川 恵 子
登 壇 秀 夫	永 井 忠 雄
小 坂 信 一	倉 橋 忠 寛
島 田 紘 一	横 前 秀 一
(彫)田 信 一	・評議員(彫刻)
(絵)戸 崎 征 郎	粕 谷 正 幸
(監事)尾 崎 功 成	西 村 明 男
(絵)木 戸 征 郎	安 田 明 長
(彫)前 田 耕 成	小 林 亮 介
(絵)石 附 進 淳	藤 巻 秀 正
(参事)栗 山 良 雄	津 島 裕 与
(参事)文 田 哲 雄	市 川 明 子
荻 原 寛 子	鷺 崎 直 子
高 藤 頼 子	
(彫)日 高 道 郎	

二科百周年展
第100回記念二科展
概要きまる
百周年事業報告

3月28日、東京都美術館に関係者が集まり、二科百周年展全体会議が開催され、会期、会場、主催(予定)がきまった。東京展オープンまでのスケジュール、出品者リスト(案)、出品交渉の役割分担、図録の概要などが話し合われた。リストアップされた作品からは、まさに「日本近代洋画の歩み」を実感するとともに、二科会の歴史の重さを認識させられた。
第100回記念二科展に特別展示される作家を、二科戦後期を代表する物故作家から、絵画14名、彫刻7名を候補として選び、出品交渉をすることになった。
百年史に掲載する作品に著作権があることがわかり会員、会友、ご遺族に、著作物使用許諾書を作成した。この作業においては、委員会の担当者、二科会事

○二科百周年展 開催概要
【東京会場】
2015年(平成27年)
7月18日(土)～9月6日(日)
会場…東京都美術館
主催…東京都美術館
公益社団法人二科会
産経新聞社
【大阪会場】
2015年(平成27年)
9月12日(土)～11月1日(日)
会場…大阪市立美術館
主催…大阪市立美術館
公益社団法人二科会
産経新聞社
【福岡会場】
2015年(平成27年)
11月7日(土)～12月27日(日)
会場…石橋美術館
主催…石橋財団石橋美術館
公益社団法人二科会
産経新聞社
西日本新聞社

百周年史係より報告と連絡
委員会では百年史制作を進めているところです。確認ハガキ他支部関係資料のご提供等、皆様にはご協力いただきありがとうございます。
すでにご承知と思いますが、5月末日到着分を持ちまして支部関係資料の受付を締め切らせていただきました。以後到着分につきましては未開封のまま返送することになりますのでご了承ください。
掲載作品写真につきましては、基本的には98回展作品を取り込んであります。92回展以降の写真で差替えを希望される場合は、本部事務にご相談ください。返却ご希望のプリント、ネガ等による差替え希望の場合は、返信用封筒を同封のうえ左記係まで郵送ください。99回展終了日到着分を持ちまして、受付を終了させて頂きます。以降は一切受け付けませんのでご注意ください。
※個別ご相談、ご質問等は左記係までご連絡なく「一報ください」。
百年史係
〒310-0836
水戸市元吉田町2687-4
電話029-1247-3400 福島賜與

寄稿随筆
二科百年によせて
倉橋 寛

二科の百回展によせて、私の見てきた二科、忘れ得ぬ先輩たちを思いつくまま、語れということになった。東郷青児先生のこともとくさんあるが、私に二科出品を勧めてくれたのは、藤田嗣治先生だった。
子どもの頃、家が藤田先生の庭続きのようなお隣で、垣根を開けて遊びに行つたものだった。戦時中に四谷の家が焼かれ、隣の藤田先生の家も跡形無く焼かれた。戦後焼け残りの慶応病院にお世話になっていた時、藤田先生が練馬で研究所をやっていると聞き、直ぐ先生を訪ねた。先生は私を見つめると「ポーズ」といって涙ながらに抱きしめてくれた。いろいろ話をしての帰りに、スケッチブック等かばんに詰めて持たせてくれた。近くで今井ロジン先生も笑って見ていた。藤田先生が人物とネコを描いて見せてくれた。小指をたて、その先から体の動きに合わせて描き続け、ひとまわりして小指の根元まできて線をつなげて終わった。
口で言うのは簡単だが、一本の線で描かれている、これは大変なことだ。私には描けるものではない…。そんな先生が私に二科会に出品するよう言われた。大変な話である。今と違い車の少ない時代、近くの八百屋からリヤカーを借り、自転車で2時間半かけ上野の美術館まで運んだ。そこから又一苦労である。搬入口のわきに作品を下ろして中を見ると先生方が色々お仕事をしている。手すきの先生を見つけ搬入前に下見してもらい、色々と参考になる話をしてもらう。
若い人の作品をよく見てくれた先生に野村守夫先生がいた。私は大変お世話になった先生だ。搬入の時だけでなく銀座の画廊を借りて、若い人の作品を集めグループ展をやってくれ、若い人の進む道を開いてくれた。所沢に野村先生のファンがお店をやっていて、中に入ると壁一面に作品が飾ってあったので、オーナーに話したら喜んでくれたので、先生に見てもらいたいものがあると云って招待した。先生は店に着くとびっくりしていたが、大喜びでオーナーと握手していた。それを見た私は先生以上に嬉しかった。あとは酒盛りが夜中つづいた。懐かしい思い出である。当時私は早稲田大学近くの会社で仕事をしていたが、早稲田と高田馬場は若者の町で、何処へいっても若者であふれていて、西武線のガード下のそんな町で、野村先生にお会いしたが、若い人たちに囲まれて先生、楽しそうだった。
戦後、私が京都相国寺にお世話になっていた頃、素晴らしい作品を描く先生がいた。色の深さ、ものを捉える角度の良さ、物静かな作品の仕上がり、この先生は大淵先生である。人の心を描くような物静かな作品こそ、私は頭の下がる思いがする。
このような先生が京都にもう一人いた。この先生こそ伊庭傳治郎先生で、よく私を引っ張って写生につれて行ってくれた。筆とコテの使い方を初歩的なところから教えられた。私の一部にもこの教えはついている。しっかりと見て、筆は自由に楽しく描くこと、それが先生の教えである。私はこうして多くの先生に教えられ、今は感謝している。

計 報



第97回展出品作 夜なべ F50



二〇一四年四月十六日逝去
享年90歳
ご遺族 興梠満須子(妻)
〒八七六〇〇六三
大分県佐伯市城西区一A-201

略歴

一九七六年 第61回展特選
一九七九年 会友推挙
一九九六年 第82回展会友賞
二〇〇五年 会員推挙
二科会大分支部、支部長

会員 興梠 忠光氏 逝く

略歴
一九七五年 第60回展記念賞
一九八五年 会友推挙

会友 梶原 良造氏

二〇一四年一月三日逝去
ご遺族 梶原君子(妻)
〒六三三八一一三
兵庫県西宮市甲子園口
四一七一四

略歴
一九八五年 第70回展特選
一九八七年 会友推挙
一九八九年 第74回展会友賞

会友 押尾 美代子氏

二〇一三年八月八日逝去
享年84歳
ご遺族 三輪由美(長女)
〒六七一一二二三
兵庫県姫路市網干区坂上二九八

略歴
一九八七年 第72回展特選
一九八九年 会友推挙

会友 上月 隆彦氏

二〇一三年四月二十日逝去
享年78歳
ご遺族 上月史枝(妻)
〒四五六〇〇二二
愛知県名古屋市中熱田区沢上
一六一三〇

お知らせ

支部展・個展・グループ展の案内を二科会HPに掲載ご希望の方は、DM(案内状)などに、「HP掲載希望」と明記して二科会事務所宛てに郵送・FAX又はメールにてお知らせください。

E-mail : nika@nika.or.jp

略歴
一九九五年 第80回展二科賞
一九九六年 会友推挙
二〇〇〇年 第85回展会友賞

会友 寺園 和己氏

二〇一四年四月二十九日逝去
享年84歳
ご遺族 寺園和子(妻)
〒八九一〇一〇二
鹿児島市星ヶ峯三二二三八

略歴
一九八〇年 第65回展特選
一九八四年 会友推挙

会友 宇高 龍氏

二〇一四年四月二十七日逝去
享年91歳
連絡先 栗原清道
〒七九一三二五三
愛媛県伊予郡松前町大溝三三二

第99回二科展 日程表

8月

21日(木) 搬入(業者・個人)
22日(金) 搬入(個人) 16時まで
23日(土) 26日(火) 審査
27日(水) 入落通知発送
29日(金) 30日(土)
業者選外作品搬出

31日(日) 選外作品搬出[彫刻]
9月
1日(月) 2日(火)
個人選外作品搬出

2日(火) 展示日
3日(水) 展覧会初日
テープカット 10時
作品研究会
[絵画] 12時 14時
授賞式 15時
懇親会 18時

6日(土) ギャラリートーク
[絵画] 13時

7日(日) ギャラリートーク
[絵画・彫刻] 13時
9日(火) 休館日
12日(金) ミニコンサート
(KUKKA) 18時

13日(土) ギャラリートーク
[絵画] 13時
14日(日) ギャラリートーク
[絵画] 13時
16日(月) 展覧会最終日
14時まで 敬老の日

17日(火) 搬出[絵画・彫刻]
18日(水) 搬出[絵画]

第99回二科展 巡回展日程

◆富山展

富山市民プラザ
平成26年9月20日(土)
9月28日(日)

◆名古屋展

愛知県美術館ギャラリー
平成26年10月7日(火)
10月19日(日)

◆大阪展

大阪市立美術館
平成26年10月29日(水)
11月9日(日)

◆京都展

京都市美術館
平成26年11月27日(木)
12月7日(日)

◆広島展

広島県立美術館
平成27年1月6日(火)
1月11日(日)

◆福岡展

福岡市美術館
平成27年2月17日(火)
2月22日(日)

◆鹿児島展

鹿児島県歴史資料センター
平成27年3月4日(水)
3月15日(日)

パリ賞 研修報告

スペイン、フランス旅行記
北村美佳

(第96回展 パリ賞)

私が訪れたのは6月。スペインも南仏も真夏の太陽が照りつけ、色とりどりの花が咲きみだれる明るく開放的な季節でした。

旅の始まりはバルセロナ。ガウディに圧倒され、美しい旧市街にたえずむピカソ美術館を堪能し、鉄道でアンダルシアへ。

いくつものオペラの舞台にもなったセビリヤは、今回最も楽しみにしていた地のひとつ。サンタクルスという旧市街に入ると、迷路のように細く曲がりくねった石畳の道が続き、あちこちから陽気な声が聞こえてくる。

街はピンクや黄色のかわいらしい配色の中にもイ



アルルの街とローヌ川



アヴィニョンにて

スラムの名残がスパイスになって独特の雰囲気。昼間は世界遺産のカテドラルや、街並みをスケッチし、長い夜はタブラオへ。魂の底から響いてくるような歌声とギターに酔っていると、美しい踊り子が狂ったように踊り始め、その場の空気が一気に張り詰める。それぞれ主張をしながらも、ぴたりと一つになる気持ちの良さには嫉妬してしまうくらい。でも、ずっと前から私の奥に眠っていたものが呼び起こされたような感覚。そして、その情熱を絵筆に託してみたいと、強く思ったのです。数日間、夢の中にいるような時を過ごしたあと、次の目的地はゴッホを魅了したアルル。しつとりと落ちていたその街は、描きと



スペイン カルモナ スケッチ

めて帰りたい風景ばかり。時をかけて修繕されてきたテラコッタの瓦の一枚一枚や、石積みの一つ一つまでがいとおしくて仕方がない。ゆったりと流れるローヌ川越しにアルルの街を眺めてスケッチしていると、今を生きる人々の暮らしとともに、その背後に広がる歴史がしみじみと感じられ、追ってくるのです。旅はこのあともまだまだ続き、たくさん魅力的な街に出逢い、刺激をもらいました。ここ数年、少し迷いを感じていた私に、再び風景と向き合える時間を頂いたことは今後の大きな励みとなります。すべてへの感謝の気持ちで次のエネルギーにして、これからも制作に打ち込んでまいりたいと思います。

山崎美恵子

(第97回展 パリ賞)

11月22日、早朝にパリのホテルに着く。まだ街には人影も少なく、ホテルのロビーでボーッと時間の経つのを待つのももったいないので、アムステルダム



赤い特急電車でアムステルダムへ

のゴッホ美術館、国立美術館、市立美術館、そして今もあると言う「飾り窓」を見てみたいと意見が一致。大きなトランクはホテルに預けて、今夜は帰ってこない事を伝え、ノルディ(パリ北駅)へ引き返し10時25分発のアムステルダム行きになんとか乗り込んだ。初の体験だし初のアムステルダム。車中は蚤の市へ行くこう、跳ね橋へもと、絵を描く仲間4人での旅はワクワクドキドキで始まった。

ボリさんと言われようがパリは幾度訪れてもシャンゼリゼ通りは外せない。買い物を楽しむ柄でもないが、どうしても、うろついてしまふ。11月末になると夜のシャンゼリゼ通りはクリスマス一色。ドキドキする程の光の洪水。家族連れで賑わっていた。このはしゃぐ気持をスケッチできる技もなく、写真を撮りまくった。翌日はグランパレで開催中のホッパー展を見る事に。行列ができていて1時間半も待った。ホッパーの描く具象画は明るい色彩なのに暗い印象を受けるそれを確かめたくて。その後、カロの「ボン・ヌフとネールの塔」やヨシキントの「パリの光景・セーヌ川」の絵などを思いながらセーヌ川沿いを歩いた。ボン・ヌフは直訳すれば「新橋」の意味だがパリでは最も古い橋になってしまった。下流の方からセーヌ川とボン・ヌフを望むという構図はその後、芸術家達によってしばしば描かれている。私もボンデザールからシテ島、ボン・ヌフをスケッチ。芸術か、観光か、ファッションか哲学か。興じるのも又楽しい。

大隈武夫理事

平成25年度

地域文化功労者表彰

文化庁では、各地域において文化振興に功績をあげた団体・個人に対し、文部科学大臣表彰をしています。茨城支部の表彰に続き、大隈武夫理事が地域の芸術発展に貢献したとして、「地域文化功労者表彰」を受けられました。お祝い申し上げます。



事務局だより

昨年に引き続き第36回定時会員総会は田中理事長の提言により、ひな壇を作らない会場設定での開催となりました。今年は二年おきの役員改選の年でもあり、理事信任投票・評議員選出意向投票を内規通りに履行。定時会員総会は理事会で検討し承認を受けた議案がすべて報告・可決され、そして理事会を経て新役員人事が報告され、百周年に向けての新体制が決まりました。

事務局ではスタッフ総出でこの一年、根気と集中力とチームワークを要する時間をひたすら費やし、百年もの歴史を築いた会員会友

の名簿、出品者・受賞者の記録等一覧を作成。そして記録に漏れないかの検証にもゴールが見えて参りました。データのデジタル化により、記録の閲覧が容易になり、出品作品等の検索もいずれできるようになるものと思われまふ。

6月10日の報道で、2020年・東京五輪の主会場となる国立競技場の建て替えに伴うモザイク壁画保存問題で、壁画13点全てを文化的価値が高いとして保存する方針が決定。その13点中約半数が故人で元二科会理事の大沢昌助氏、寺田竹雄氏の作品である事は二科会会員の一人として、とても嬉しく誇りに思いました。

来年、第100回記念二科展発刊予定(二科70年史以降)

資料を探しています

次の年代の出品者目録をお持ちの方は、事務局にご一報下さい。

- 第11回二科展(1924年)
- 第12回二科展(1925年)
- 第13回二科展(1926年)
- 第15回二科展(1928年)
- 第16回二科展(1929年)
- 第47回二科展(1962年)



帝国ホテル二科サロン

東京・銀座帝国ホテルの小ロビーに、二科サロンとしたコーナーウィンドウを設けております。平成25年からは二科展受賞者の小品を年間4期に分け、展示・販売しております。場所柄多くの人の目に触れるコーナーです。7月8日から3期目を展示します。



左右とも寺田竹雄氏
(左「よろこび」正面玄關横壁面)

の二科30年史を執筆される美術評論家・瀧井三氏は、週に1〜二度事務所に足を運ばれ、取材インタビューや資料を詳細に読み込み、執筆されていらつしやいます。二科会のお話を伺うとまるで生き字引のよう！

二科展100年の歴史は本当にドラマチックです。先輩方が築いて来られた歴史の重みを感じながら、現在私達は、その歴史を更新しております。

第99回二科展・第100回記念二科展に、その素晴らしいコラボレーションが、展示や記録の面でも見られるよう、田中理事長のご指導を受け、一層努力し、進めて参りたいと思います。

事務局長 埴 珠世

編集後記

機関誌「二科」について

機関誌「二科」、通称二科ニュースは、1979年6月に法人化の発足とともに、第一号が発刊されました。その第一号、当時の吉井理事長の記事「発刊の言葉」には、——新しい第一歩を踏み出す、これを機会に会員向けの機関誌を出すことにした。機関誌といっ

併せ持ちます。先の会員アンケート「二科ニュースについて」の項目では、同感の意見も多々で、今後どのような在り方を目指すか、多くの課題の提言をいただきました。引き続き忌憚のないご意見をいただき、展覧会開催の報告を柱に、会の運営を明快に伝える誌面であるよう、更には会員、会友、出品者の顔が見える発言を掲載できるよう努めます。

今号は展覧会報告の形を、多少変えてみました。会員数氏による作品寸評と、地方在住の方々へ春季展の雰囲気を感じていただきたく、展示会場案内を試みました。全展示壁画掲載とはならず、さらに企画を練ることが必要な様です。

編集委員会

- | | | |
|--------|----|-----|
| 委員長(総) | 野村 | みそら |
| 委員(総) | 本間 | 千恵子 |
| 委員(総) | 深見 | まさ子 |
| 委員(総) | 金澤 | 英亮 |
| 委員(総) | 幡 | 青果 |
| 委員(総) | 宮澤 | 光造 |

平成二十六年八月三十日発行

公益社団法人 二科会

〒100-0022

東京都新宿区新宿4-3-15

レインボータウン 501号室

電話 03(3355)6646

FAX 03(3355)4768